

■平成21年度の業績について

平成21年度は、地域金融機関として中小企業金融の円滑化に向けた取組みの強化と「お客様本位・利用者利便」に向けた機能面の充実等に努めた結果、預金・貸出金ともに前期比増加が図れ、昨年を上回る収益を確保することができました。

自己資本比率 ～自己資本の充実の状況～

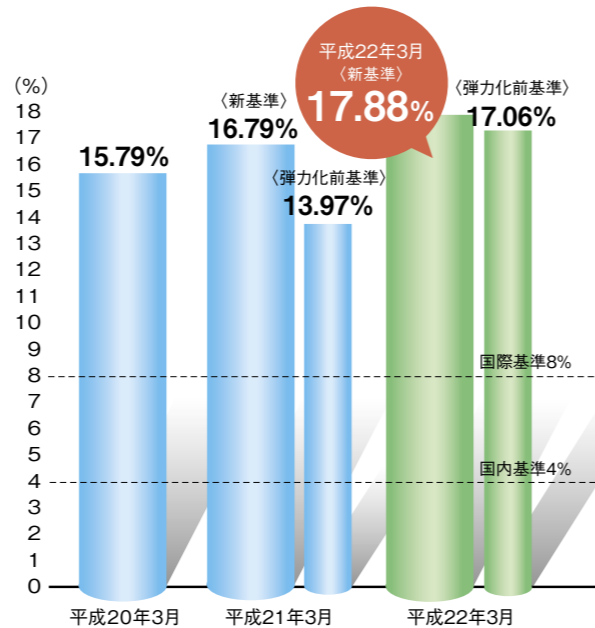
金融機関の自己資本比率とは、総資産のうちのリスク・アセット(リスクを有する資産)等に対して利益剰余金(内部留保)や出資金などの自己資本がどれくらいあるのか、その割合を示す指標で、金融機関の経営の「健全性」を表すために最も広く用いられている指標です。具体的には下記の算式により算出しています。

〈当庫の平成22年3月期の自己資本比率〉

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{基本的項目(Tier1)} 37,562 \text{ 百万円} + \text{補完的項目(Tier2)} 337 \text{ 百万円}}{\text{信用リスク・アセット} 194,356 \text{ 百万円} + \text{オペレーショナル・リスク} 17,524 \text{ 百万円}} \times 100 = 17.88\%$$

◎ 当金庫の平成22年3月期の自己資本比率については、本業における収支状況が堅調に推移したことに加え、株式市場の回復に伴い保有有価証券の評価損が減少したことにより、分子である自己資本額が378億99百万円(前期比7億3百万円増)となったため、前期比1.09ポイント増加の17.88%となりました。

◎ 当金庫の自己資本比率は、国内基準である4%(都市銀行など海外でも営業している金融機関に適用される国際基準は8%)を大幅に上回っており、経営の健全性・安全性を十分保っております。これは、各資産を一分野に集中させることなくリスクの分散を図りながら、一貫して自己資本の充実と資産の健全化に努めてきた結果と評価しております。今後も、引き続きリスク管理を経営上の最重要課題と位置づけ、健全性の確保と収益性の向上に努めてまいります。



※ 自己資本比率規制の一部を弾力化する特例(平成20年金融庁告示第79号)に基づき、平成20年度以降、自己資本比率の算出に際し「その他有価証券の評価差損」を自己資本の基本的項目から控除しないことになりました。この特例措置による基準は平成24年3月末まで適用されます。

※ 当金庫は、特例措置による基準を適用して計算した自己資本比率とともに、弾力化前基準により計算した自己資本比率も開示しています。

※ 当金庫の自己資本の充実の状況等については、パーゼルⅡ第3の柱「市場規律」で求められている開示項目を、44ページ以降に掲載しています。



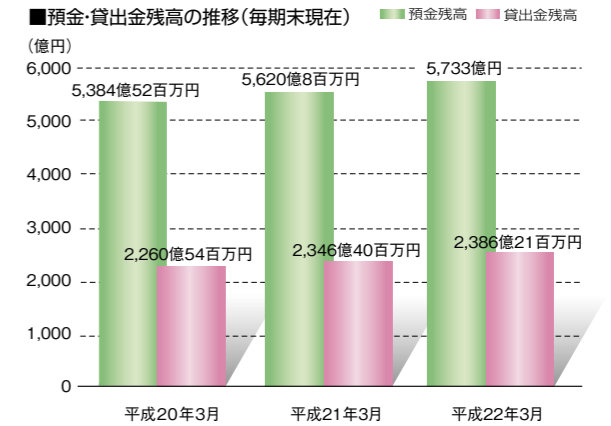
預金・貸出金

◎ 預金については、引き続き、お客様の視点に立ったサービスの拡充や利便性の向上に努めた結果、順調に増加しました。

科目別では、定期預金が夏季及び冬季特別定期預金や退職金定期預金の取扱いなどから54億円増加し、定期性預金で43億円の増加となり、流動性預金についても、普通預金を主に69億円の増加となりました。

人格別でも、引き続き「個人預金」が堅調で、134億円増加しました。

以上から、預金全体の期末残高は**5,733億円**(前期比112億円、2.00%増)となりました。

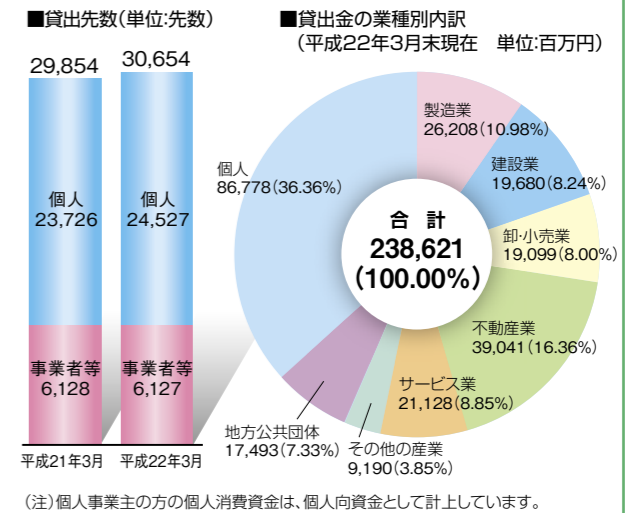


◎ 貸出金については、地元金融機関としてできるだけ多くのお客様のお役に立てるよう貸出先数に拘った取組みに努めました。

事業性融資については、一部に回復が見られるものの依然として先行き不透明な経済情勢が続いており、売上低迷や低調な設備投資等により前期比減少の結果となりました。

一方、個人向け融資については、住宅ローンを中心に56億円の増加となりましたが、期中に行った業種見直しによる変更分(個人から事業者へ25億円変更)を勘案すると、実質82億円の増加となりました。

結果として、事業性融資の落ち込みを個人向け融資でカバーし、貸出金の期末残高は**2,386億円**(前期比39億円、1.69%増)となりました。



損益

◎ 業務純益は、有価証券利息配当金収入等が減少したものの、昨年度計上した有価証券評価損(減損処理)の減少等により、14億70百万円(前期比6億46百万円、78.50%増)となりました。

また、破綻懸念先・破綻先等の回収の見込みがつかない債権を償却処理するなど、資産の健全化にも努めました。結果、経常利益は12億94百万円(前期比4億74百万円、57.88%増)となりました。

◎ 当期純利益は、法人税等充当額4億88百万円及び過年度法人税等1億11百万円から、法人税等調整額24百万円を差し引き、7億11百万円(前期比83百万円、13.31%増)となりました。

ワンポイントメモ

- ・業務純益：金融機関の基本的業務で得た収益から費用を差し引いた利益です。
- ・経常利益：基本的業務とその他の業務で得た収益から費用を差し引いた利益です。
- ・当期純利益：経常利益に特別利益・特別損失を加減し、法人税等を控除した最終利益です。

■損益状況の推移(毎期末現在)

